

インド・国際 PCB（ポリ塩化ビフェニル） 処理技術セミナーで講演

2010年8月24日～25日、ニューデリーで、インド政府の環境森林省と UNIDO（国連工業開発機構）および GEF（地球環境ファシリティ・ファンド）が主催する PCB 処理技術セミナーが開催され、当社より、商品市場・技術開発センター長 浄弘執行役員が「当社の PCB 処理技術と実績、適用性について」と題し、プレゼンテーションを行いました。

インド国内では、負の遺産として長い間保管されてきた PCB 汚染物を段階的に廃止するため、UNIDO とインド政府が連携して'10年2月、プロジェクトを立ち上げ、PCB の処理に対して GEF より資金が供与されることになりました。

今回のセミナーでは、インド国内に保管されている PCB の内、7700トンの PCB を3ヶ所のプラントで'28年までに処理をするという計画に基づき、PCB 管理と処理の技術を保有している会社11社（日本4社、欧米4社、インド3社）からプレゼンテーションが行われました。

当社のプレゼンテーションでは、多種多様な PCB 廃棄物および汚染物の処理が可能で、豊富な納入・処理実績を有する、以下の4つの技術を紹介し、安全で信頼性の高い技術であるという評価を得ました。

- 1) 高濃度の PCB を脱塩素化反応により無害化する液処理技術（SP法）、
- 2) 真空超音波洗浄や攪拌洗浄などを組合わせて容器処理を行う技術（SED法）、
- 3) 洗浄や加熱が困難な形態の PCB 汚染物に対して処理を行うプラズマ溶融技術、
- 4) 環境省の技術認定を取得した、微量 PCB を無害化し、絶縁油として再生させる技術（HDR法）



セミナー参加者全員で
前列左端が発表者の浄弘執行役員



なお、セミナーが開催されたニューデリーは、インド北部に位置し、約2200万人の人口を有するインドの首都圏にある大都市です。

経済成長が著しい街は、活気に満ち溢れ、おびただしい数の自動車、バイク、力車やタクシー、移動する人々であふれ、交通渋滞もしばしばあります。自動車が信号待ちで停まると、どこからともなく、物を売りに来る人びとが近寄って来ることもあり、生活感の格差も感じました。

日本との時差は3時間30分という珍しい設定で、日本との交信を試みる時は一苦労です。

近年の世界的なエコロジー意識の高まりはインドにも波及しており、'01年には全ての商用車に圧縮天然ガス燃料を使用することが義務づけられたり、'09年2月にはデリーでレジ袋が使用禁止になるなど、国や州単位で環境問題への取組みが盛んになっています。